

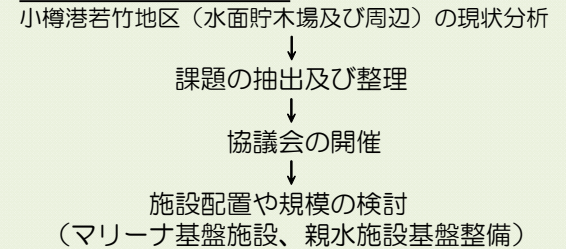
# 小樽港若竹地区における地域活性化のための基盤整備検討調査

## 調査の背景・目的

小樽港若竹地区は、水面貯木場として利用されていた空間の一部を活用し、既に海洋レクリエーション需要に対応するためのマリーナや親水公園等、市民や来訪者が海に親しめるウォーターフロントを形成し、小樽港のにぎわい空間として利用されている。

近年、マリーナを利用する船舶の大型化が進んでいるほか、道外や海外から大型艇の寄港も見られるようになってきている。また、水面貯木場及び親水公園を活用した民間主催のイベントが増えている。このような状況を踏まえ、小樽港若竹地区のウォーターフロントとしての魅力を最大限に引き出すことにより、多くの市民や来訪者でにぎわうウォーターフロント空間の創出を図り、さらには地域経済の活性化につなげるため、当該地区の有効活用を検討する。

## (1)調査の手順



## 調査成果

### ○小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の現状分析

- ・水面貯木場については、南洋材を取扱っていたが、東南アジア地域などの産出国での製材化の進展や環境保全の問題から輸出が制限されて、平成14年を最後に取り扱いが無くなっており、その後、小型船舶操縦士の免許試験や教習に利用されているほか、イベントや教育機関などのクラブ活動にも利用されている。
- ・小樽港マリーナについては、保管隻数が平成12年度に最大となる312隻を数えたが、その後は減少し、平成25年度末では、213隻となっている。また、係留している船舶が大型化しており、現状では、計画値の300隻を確保できない状況にある。
- ・築港臨海公園については、日常的な市民利用や小学校の遠足のほか、水面貯木場などを利用した民間イベントに利用されている。

### ○課題の抽出及び整理

- ・マリーナ需要への対応
- ・水面や水辺を生かしたイベント空間の創出
- ・新たな親水機能の創出
- ・小型船舶操縦士の免許試験や教習、クラブ活動への対応

### ○協議会による検討

当該区域については、「水面や水辺を生かした海を体感できる魅力あるウォーターフロント空間」を目指し、緑地の拡張や既存防波堤を活用した散策路などを導入することを検討した。

### ○施設配置や規模の検討

- ・マリーナ施設  
マリーナの施設の配置計画については、マリーナ施設の将来需要に対応できるように大型艇（ヨット、ボート）を対象とした棧橋を計画した。係留施設は、大型艇を対象としており、棧橋間に1艇を収容するものとし、収容される最大隻数を57隻分として計画した。

- ・親水施設

親水施設の配置については、水面や水辺を生かしたイベント空間の創出や新たな親水機能の創出を図るため、親水性や多目的広場の機能を有した緑地を計画したほか、既存の防波堤を有効活用し、海や船を眺めることができるよう、同防波堤の上部に散策路を計画した。



【マリーナ拡張整備イメージ】  
拡張する係留施設は、大型艇が保管できるように計画



【マリーナ拡張計画図】



【緑地整備イメージ】  
親水機能やイベントに対応できるように浮き棧橋を配置



【散策路及び水上デッキ】  
既存防波堤の上部を活用した散策路

## 基盤整備の見込み・方向性

本調査に関連する基盤整備を行うためには、小樽港港湾計画の変更が必要となるため、港湾計画の変更を含め基盤整備を行う環境が整い次第、関係機関と調整を図り、順次、整備を行う予定である。

基盤整備を行うことで、小樽港若竹地区のにぎわいを創出するとともに、隣接する大型複合商業施設等との相乗効果により多大な経済効果をもたらすものと考えられる。

## 今後の課題

マリーナの利用船舶の大型化に対応した施設を整備するとともに、大型艇の誘致活動などを進め、寄港を促進していく必要がある。

また、当該地区の水面や緑地を活用したイベントを主催する市民団体などのほか、商業施設と連携し、計画の事業化や地域の活性化に向けて、関係者と十分な協議を行うことが必要である。



小樽港若竹地区整備後のイメージ

小樽港若竹地区における地域活性化のための基盤整備検討調査			
調査主体	小樽市		
対象地域	北海道小樽市	対象となる基盤整備分野	港湾、公園、道路

1. 調査の背景と目的

調査対象の小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）は、従来、水面貯木場として利用されていた空間を中心に活用し、海洋レクリエーション需要に対応するためのマリーナや親水公園等、市民や来訪者が海に親しめるウォータースペースを形成し、小樽港のにぎわい空間として利用されている。このような中、マリーナでは、近年、利用する船舶の大型化や、道外や海外からの大型艇の寄港が見られるようになってきているほか、水面貯木場や親水公園では、民間によるイベント等の開催や小型船舶操縦士の免許試験などの利用が増えている。

当該地区の水面背後にはJR小樽築港駅、札幌自動車道、一般国道5号が接続し交通の利便性が良く、大型複合商業施設や石原裕次郎記念館をはじめとするアミューズメント施設が立地しており、様々な集客交流機能を備えているため、ウォータースペース空間として発展の可能性はある。

しかしながら、現状の施設では、マリーナを利用する船舶の大型化に係留施設が対応できていないため、非効率な状態が続いており、さらに大型の船舶に係留することは困難であることから、道外や海外のプレジャーボートを誘致し利用促進を図る上での支障となっている。また、イベント利用でも施設整備が不十分で開催者に大きな負担を強いている。

このため、マリーナを利用する大型艇に対応した係留施設の整備、親水機能の充実、水面におけるイベント等の利用環境整備など、当該地区のウォータースペースとしての魅力を最大限に引き出すことにより、多くの市民や来訪者でにぎわうウォータースペース空間の創出を図り、さらには市内経済の活性化につなげるため、若竹地区（水面貯木場及び周辺）の有効活用を検討する。

若竹地区（水面貯木場及び周辺）の施設概況図



## 2. 調査内容

### (1) 調査の概要と手順

調査の手順としては、小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の港湾施設の利用状況の調査や市民団体の関係者からなる協議会を設置し、当該地区の課題についての検討を基に、基盤整備に必要なマリーナ施設（水域施設、外郭施設、係留施設）、親水施設（係留施設、緑地、道路等）の配置や規模を検討した。

#### 【基盤整備調査の手順】

##### 1) 現状分析（資料収集整理）

小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）について、小樽市の既定計画の位置付けや施設の利用状況、平成24年に実施した市民アンケート結果などを踏まえ、現状分析を行った。

###### ①既定計画

当該地区の既定計画での位置付けを整理。

###### ②利用状況

###### ○小樽港マリーナ

小樽港マリーナの保管隻数（船型別の隻数）を調査。

###### ○水面貯木場

水面貯木場の取扱貨物について、小樽港統計年報を基に整理。

水面貯木場のイベント等の利用状況を把握し、利用団体から利用時間帯や利用範囲を調査。

###### ○築港臨海公園

公園の利用状況を把握し、利用時間や利用範囲を調査。

###### ③市民アンケート結果（平成24年実施）

平成24年7月に小樽市内在住の18歳以上の市民を対象に小樽港に関する市民アンケートを実施しており、アンケート結果で小樽港若竹地区の活用方策を確認。

##### 2) 課題の抽出及び整理

小樽市の既定計画での方向性や施設の利用状況などを踏まえ、当該地区における課題の抽出などを整理。

##### 3) 協議会

当該地区を利用している市民団体の関係者と協議会を開催し、当該地区のウォーターフロントとしての更なる魅力づくりを目指すために将来像を検討。

##### 4) 施設配置や規模の検討（マリーナ基盤整備、親水施設基盤整備）

当該地区の課題を踏まえ、活用方針や導入すべき機能を整理し、マリーナ施設や親水施設などの配置や規模を検討。

## (2) 調査結果

### 1) 現状分析

①小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の現状を以下のとおり整理した。

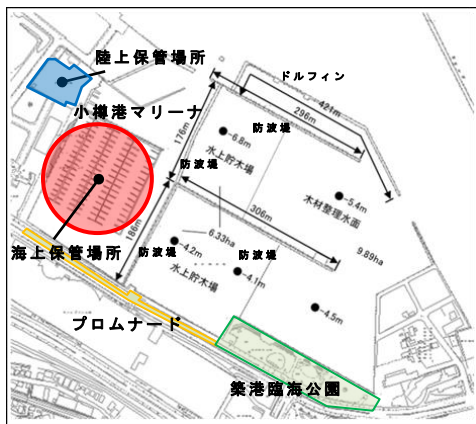
#### 【若竹地区水面貯木場】

- 水面貯木場における南洋材の取扱いは、東南アジア地域など産出国での製材化の進展や環境保全の問題から輸出が制限されて、輸入量が減少し、平成 14 年を最後に無くなっている。
- 今後の南洋材の取扱いについては、南洋材を取り扱っていた市内業者の事業廃止のため、見込めないものと考えられる。
- 現状における水面貯木場は、平成 15 年から小型船舶操縦士の免許試験や教習に利用されているほか、イベントや教育機関などのクラブ活動にも利用されている。

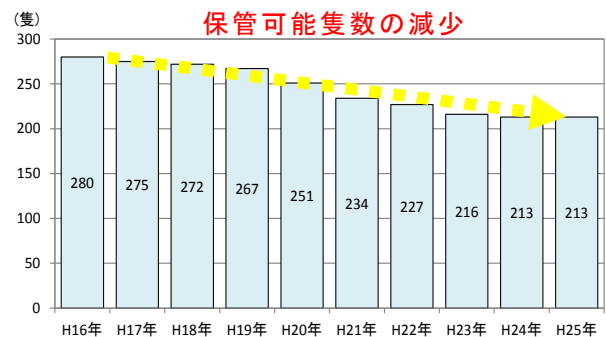
#### 【若竹地区水面貯木場周辺】

- 小樽港マリーナの保管隻数は、供用開始後、順調に増加し、平成 12 年度に最大となる 312 隻を数えたが、その後は減少し、平成 25 年度末では、213 隻となっている。
- 一方で、小樽港マリーナの保管可能隻数については、係留しているプレジャーボートの船型の大型化により、現状では、計画値の 300 隻を確保できない状況にある。
- 築港臨海公園は、日常的な市民利用や小学校の遠足のほか、水面貯木場や背後の親水公園を利用した民間主催のイベントなどに利用されている。

### 若竹地区水面貯木場及び周辺の施設配置図



### 小樽港マリーナの保管隻数推移

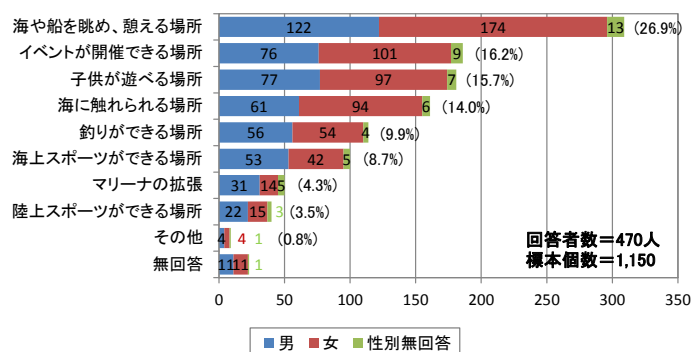


②小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）に関する市民アンケート結果を以下のとおり整理した。

#### 【市民アンケート結果】

将来の当該地区の活用方策について、「海や船を眺め、憩える場所」が最も高く、次いで、「イベントが開催できる場所」、「子供が遊べる場所」、「海に触れられる場所」がほぼ同数で続き、市民からウォーターフロントとしての活用が望まれている。

#### 【若竹旧貯木場及び周辺地区の望ましい利用方法】(全体男女別)



## 2) 課題の抽出及び整理

①小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の課題を以下のとおり整理した。

- マリーナを利用する船舶が大型化し、利用形態が変化してきたため、水面の利用形態や区画の再編。
- 道外や海外からの大型船舶に対応するため、係留施設などの整備。
- 水面や親水公園を利用したイベント需要の増大と大規模化に対応するため、緑地の拡張や新たな機能の整備（浮き栈橋、船揚場等）。
- 今後見込まれる交通需要に対して円滑なアクセスを確保するため、道路標識や案内サインの充実などによるアクセス環境の向上。
- 現在活用されていない水面の一部（Dゾーン）について、にぎわい空間づくりにつながる水面の利活用。

②小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の有効活用を図るためのポイントを以下のとおり整理した。

○マリーナ需要への対応

将来的なプレジャーボート需要の変化に柔軟に対応できるようにマリーナ拡張対応水面の確保。

○水面や水辺を生かしたイベント空間の創出

水面・水辺を生かした多種多様なイベントに対応できる広場機能や海陸アクセス機能等を備えた利便性の高いイベント空間の創出。

○新たな親水機能の創出

既存施設等を有効活用しつつ、船や海を身近に眺められ、さらには直接海に触れられるよう、親水空間としての魅力向上。

○小型船舶操縦士の免許試験や教習、クラブ活動への対応

安全で秩序ある海洋レジャーやマリンスポーツの普及に向けた教育用水面としての活用。

○水産体験空間の創出

水産業の基地の機能を有する小樽市の特徴を生かし、市民や学校教育での児童や生徒を対象とした蓄養体験など、水産体験場としての活用。

### 3) 協議会

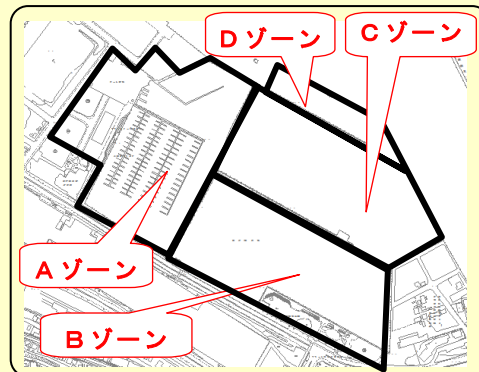
小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の有効活用を図るため、市民や関係者の意見を取り入れるため、当該地区を利用している市民団体から推薦された15名の委員からなる協議会（意見交換会）を開催し、平成26年7月から平成27年1月までに計3回の意見交換会を行い、ゾーン別に活用方針及び導入すべき機能（施設）を次のとおり整理した。



#### 小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）が目指す姿

有効活用を図ることを対象とする区域は右図に示す若竹地区（水面貯木場及び周辺）とし、目指すべき将来の姿を次のとおりにした。

小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）は、「水面や水辺を生かした海を体感できる魅力あるウォーターフロント空間」とする。



#### 若竹地区（水面貯木場及び周辺）のゾーン別活用方針及び導入すべき機能（施設）

ゾーン	活用方針	導入すべき機能（施設）
Aゾーン	現状のまま、マリーナ施設として活用する空間。	○マリーナ（既設）
Bゾーン	水面や水辺が一体となって、船や海を眺めることができ、多様なイベントの開催が可能な水面や広場を有するにぎわい空間。 また、ヨットやカヌー等のクラブ活動ができる空間。	○緑地（既設、拡張） ○既存防波堤を活用した散策路 ○親水機能 ○浮き桟橋 ○多目的広場 ○水上デッキ ○船揚場 ○駐車場 ○水面（イベントやクラブ活動用）
Cゾーン	小型船舶操縦士の免許試験や教習ができ、海上レジャーの普及ができる空間。 また、マリーナ施設の将来需要に対応できる空間。	○水面（小型船舶操縦士免許試験や教習用） ○マリーナ拡張対応エリア
Dゾーン	水産体験場として蓄養学習・体験ができる空間。	○水面（蓄養体験用）

#### 4) 計画の検討

##### ①施設配置計画図

小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）に導入する主な機能について、検討結果を踏まえ施設配置計画を次のとおり計画した。

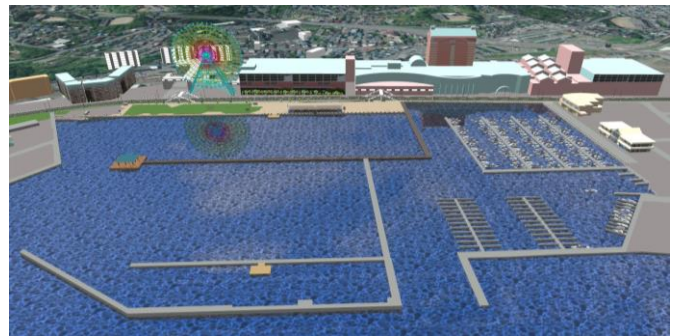
##### 【マリーナ施設の施設配置計画】

マリーナの施設配置計画については、将来の需要予測に基づき、大型艇を対象とした栈橋を計画した。栈橋設置の規模は、大型艇が対象のため栈橋間に1艇を収容するものとし、収容される最大隻数を57隻分として計画した。

施設の配置は、検討結果を踏まえ以下のとおり計画した。

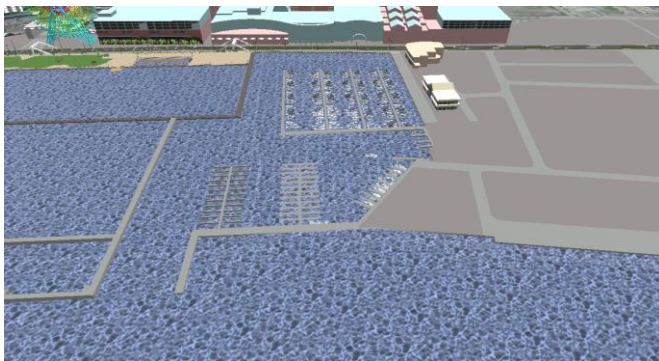


施設配置計画図

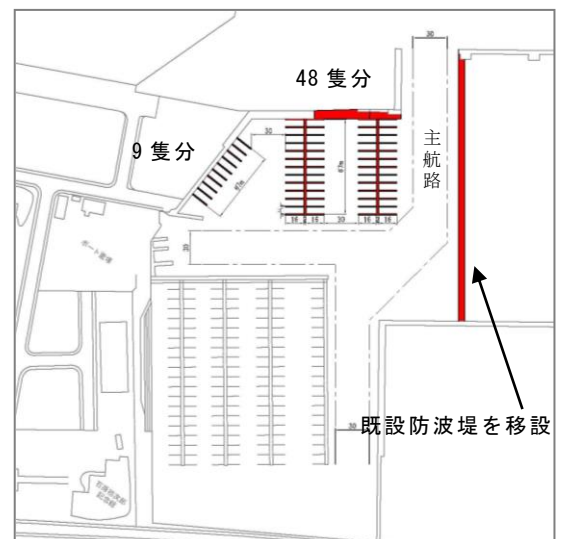


施設配置計画イメージ図

- 既存マリーナと一体的に利用できるよう、小樽港マリーナに隣接した水面に拡張するマリーナの係留施設を配置。
- 拡張するマリーナは、大型艇（ヨット・ボート）が保管できる係留施設を配置。
- マリーナの係留施設の拡張に伴い、既存の防波堤を移設し、マリーナを利用するヨットやボートが安全に航行できる主航路を配置。



マリーナ拡張整備イメージ図



マリーナ拡張計画図

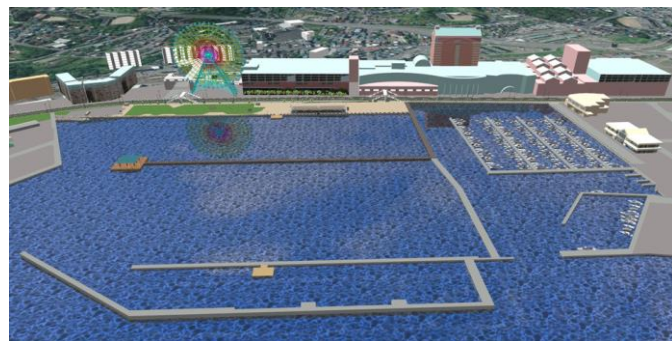
【親水施設の施設配置計画】

親水施設の施設配置計画については、水面や水辺を生かしたイベント空間などに対応する施設を計画した。

施設の配置は、検討結果を踏まえ以下のとおり計画した。



施設配置計画図

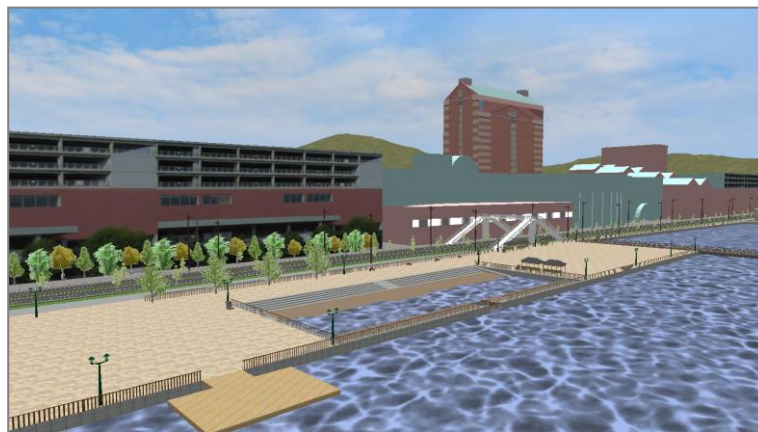


施設配置計画イメージ図

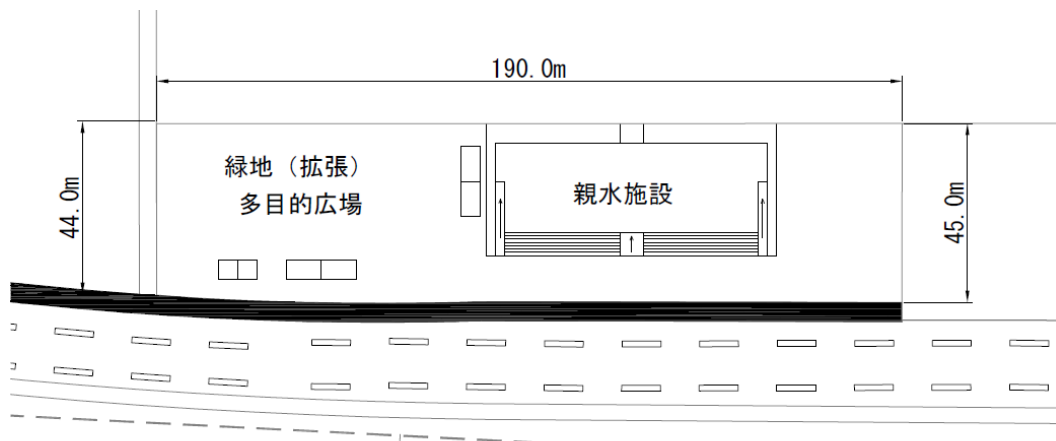
(新規緑地)

○水面や水辺が一体となって利用できるよう、既存の築港臨海公園に隣接して緑地を配置する。

○水面を利用したイベントの開催に利用できるよう、拡張する緑地全面の水面に浮き栈橋を配置する。



新規の緑地整備のイメージ図



新規の緑地計画図



(散策路及び水上デッキ)

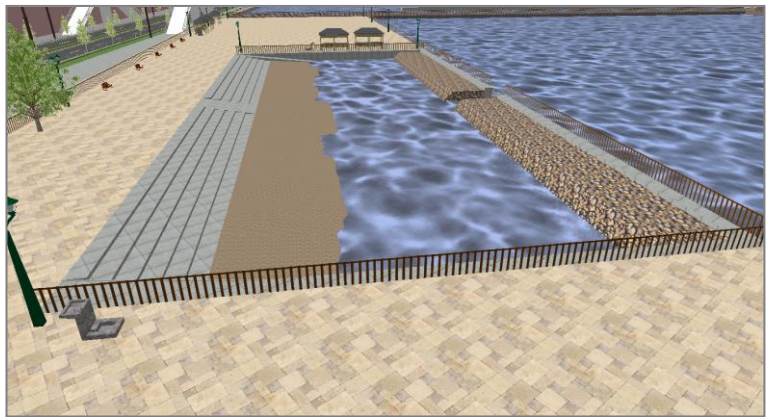
- 既存の防波堤を有効活用し、海や船を眺めることができるよう、同防波堤の上部に散策路を配置する。
- 既存防波堤に設置する散策路の先端に水上デッキを配置する。



散策路及び水上デッキの整備のイメージ図

(親水機能)

- 子供やイベント参加者を含めた様々な人が海に触れられるよう、拡張する緑地に人工砂浜や親水機能を配置する。



親水機能の整備のイメージ図

(船揚場)

- イベントで用いる舟艇の揚げ降ろしで利用できるよう、既存の駐車場の海側に船揚場を配置する。



船揚場の整備のイメージ図

なお、マリーナ施設については、将来需要の動向を見極めながら、大型化に対応した係留施設等の整備を進める必要があるため、親水施設の配置計画図には、拡張するマリーナ施設を記載していない計画図となっている。

## 5) 交通アクセス道路の検討

小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の来訪者の案内、誘導の円滑化に向けた対策の方針を以下のとおりとする。

### 【自動車アクセス対策】

当該地区の道路案内標識は、広域的な経路案内が中心で地区内の各施設の地点案内が少なく、目的地を案内する上での連続性に乏しい実態があるため、各施設の地点案内の充実を図る必要がある。

また、当該地区内外の道路交通について、イベントの開催日は休日为中心であり、平日と比較すると港湾関連交通が大幅に減少するため、大きな影響を与えることにはならないと考えられる。

### 【歩行者アクセス対策】

当該地区の市道や公共施設には、中心市街地の観光エリアと同じデザインの歩行者案内サインが随所に設置されているが、築港臨海公園や小樽港マリナー水面に面した臨港道路には歩行者用の案内サインが皆無のため、来訪者増への対応や防災面にも配慮し、当該臨港道路における歩行者案内サインの設置促進を図る必要がある。

また、ウォーターフロント地区と商業地区を結ぶマリナー歩道橋について、民間事業者と連携しながら拡幅と併せたバリアフリー化を図る必要がある。



### 3. 基盤整備の見込み・方向性

調査結果に基づき、小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の魅力あるウォーターフロント空間の創出を図ることを目指しており、これを実現するために当該地区で効果的な基盤整備を進めることとしている。基盤整備を行うためには、平成27年度から小樽港港湾計画の変更の作業を進め、平成28年度末を目途に行政手続きを終える予定であり、その後、関係機関との調整を図りつつ、事業化に取り組んでいく。

また、施設整備を行うことで、小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）のにぎわいを創出するとともに、隣接する大型複合商業施設等との相乗効果により多大な経済効果をもたらすものと考えられる。

### 4. 今後の課題

#### (1) マリーナに寄港する大型艇の誘致活動

マリーナの利用船舶の大型化に対応した施設を整備するとともに、大型プレジャーボートの誘致活動などを進め、寄港を促進していく必要がある。このため、誘致活動などについて、関係機関と十分な調整を行うことが必要である。

#### (2) 市民団体や近隣大型複合商業施設との連携

小樽港若竹地区（水面貯木場及び周辺）の水面及び緑地を活用したイベントを主催する市民団体等のほか、近隣大型複合商業施設と連携し、計画の事業化や地域の活性化に向けて、関係者と十分な協議を行うことが必要である。